

彼方 【かなた】

校長通信

H31.3.11

Vol.32

【白山中を美しくする会】

三月十日(日)に「白山おやじの会」が主催する「白山中を美しくする会」の記念すべき第一回目の活動となる「トイレ掃除」を開催しました。

十二月の千葉県中学校長会の中で「日本を美しくする会」の利哲雄会長の記念講演がありました。そのお話の中で、イエローハットの創始者である鍵山秀三郎さんがこの会を立ち上げ、利会長で三代目と伺いました。会の趣旨と活動内容をお聞きし、すぐに自分の学校にも取り入れられないか考えました。



そこで今年度本校で立ち上げた「おやじの会」のメンバーに打診してみました。「日曜日の午前中に、子どもと一緒に便器に向き合うという誰にでもできる簡単なことですが、なかなか続けられない活動を是非とも『おやじの会』の主催事業に加えたいのですが…」という「それは面白い。やりましょう！」という反応でした。実際にやるうと決めると動きが速いのが「おやじの会」です。卒業式の直前の日曜日に開催日を決め、早速、「日本を美しくする会」に連絡を取らせていただきました。すると事前打ち合わせに来ていただいた上に、校内のトイレの下見と人数割り振りを考えてくださいました。

当日は、参加者五十人名余りを五班に分けました。そして、各班のリーダーとなるスタッフの皆さんが十一名参加してくださり、参加者の名札や清掃用具まで用意していただきました。早朝より来校していただいたので、校長室にお通しして、と考えていたのも束の間、一緒にいらつしやった京葉ブロックの皆さんと共に用具の搬出や会場準備をササッとやっしてしまいました。準備が整ったところで、お茶でもと思い、さらにお声がけると「そういうのは一切気にしないでください。」との一言でした。

参加者が集まると司会進行や諸注意まで引き受けていただき、丁寧に進めていただきました。手慣れた進行とボランティアに徹しているスタッフの皆さんには頭が下がるのと同時に大変驚かされました。各班に分かれ、トイレ掃除の場所に移動すると、用具の説明をわかりやすく、実践を交えて見せてくださいました。これだけ丁寧に掃除すれば二時間でも足らなくなると実感しました。

それぞれ割り当てられた便器を一時半かけて、隅々まで磨き上げました。始めはなんとなくやらされてる感じの生徒も時間が経つにつれて「先生！トイレ掃除、楽しいですね。」「何にも考えないで黙々と皆で作業するのは気持ちがいいですね。」という感想を話してくれました。「めちゃくちゃきれいになりました。見てください！」とリーダーの方に声をかける



「おやじの会」のメンバーは、「いいですねー！」と言われ、嬉しくなっています。一時半という時間があっという間に過ぎてしまいました。

清掃用具の片付け方も見事でした。教えていただいた雑巾の洗い方や仕分け方、片付け方を実際にやってみると学校の清掃用具の使い方や片付け方がいかに雑になっているか気づかされました。「使った用具を持ち帰って、乾燥させて倉庫にしまうまでが活動です。」と聞いたときには本当に嬉しくなりました。「おやじの会」主催の「トイレ掃除」を活動の中に入れて本当に良かったと思っています。

当初活動の名前を「白山トイレを美しくする会」としたのですが、「白山中を美しくする会」と変えていただきました。活動しているうちに、その意味がわかってきました。トイレをきれいにするのは、白山中に関わるすべての人の気持ちをきれいにすることが目的で、「トイレ掃除」は、そのためのひとつのツールに過ぎないのだということです。トイレに限定せず「白山中を美しくする会」とした意味が理解できたように思います。

この活動は今後も継続し、少しずつ人数が増えるようにしていきたいと考えています。たった半日でしたが、とても充実した半日となりました！利会長を始めとするスタッフの皆さんに本当に感謝です！どうもありがとうございました。

